

診療機能のあり方について

第1回、第2回の委員会で議論となった項目ごとに、がんセンターの現状とそれを踏まえた将来のあり方を整理した。

1 ゲノム医療の現状

(1) 「ゲノム医療・臨床試験センター」の設置

急速に展開する「がんゲノム医療」への対応等を目的に H30.4 に「ゲノム医療・臨床試験センター」を設置。

(2) 「ゲノム医療外来」の開設準備

現在、先進医療施設として遺伝子パネル検査を行うための準備を進めている。承認後、速やかに「ゲノム医療外来」を開設し、自主検査も含めたパネル検査を実施する。

【将来のあり方】

ゲノム医療の急速な進展に的確に対応し、県内における中心的な役割を担っていききたい

2 外科手術の現状

(1) 手術後5年生存率の状況

手術がメインの治療となるステージⅠ・Ⅱの5年生存率において、がんセンターは、全国32施設の全国がんセンター協議会の平均をほぼ全ての区分で上回るなど、高い治療実績をあげている。

【Ⅰ・Ⅱ期がんの生存率】

区 分	Ⅰ 期		Ⅱ 期	
	がんセンター	全国がんセンター協議会平均	がんセンター	全国がんセンター協議会平均
胃がん	99.1	97.4	69.3	65.0
大腸がん	98.7	97.6	89.8	90.0
肺がん	83.6	81.8	56.7	48.4
乳がん	100.0	100.0	97.0	96.0
子宮頸がん	93.9	92.3	79.9	77.6

出典：全国がんセンター協議会生存率協同調査(2018年2月28日公表)

(2) 手術実績

子宮頸がん・子宮体部がん、卵巣がん・卵管がん、膀胱がん、肺がんなど、各部位のがん手術において、全国有数の手術実績を誇っている。

【主な部位の手術件数】

部 位	H28手術件数	順 位
子宮頸がん・子宮体部がん	509	全国第2位
卵巣がん・卵管がん	119	〃 2位
膀胱がん	224	〃 12位
肺がん	258	〃 20位
頭頸部がん	134	〃 31位

出典：DPC 対象病院・準備病院・出来高算定病院の統計(対象病院数：3,238)

(3) 低侵襲手術の状況

がんセンターでは、従前から鏡視下手術やロボット支援手術などの低侵襲手術を強みとしており、その実施件数は年々増加している。

【年間手術件数(手術室)】

区 分	H27	H28	H29
年間手術件数①	3,210	3,316	3,332
うち鏡視下手術②	659	764	770
うちロボット支援手術③	57	76	90
(②+③)／①の割合	22.3%	25.3%	25.8%

【将来のあり方】

- ・ 良質な外科手術を数多く実施するとともに、がんセンターの強みである低侵襲手術を中心に、手術のさらなる充実を図る
- ・ 他の医療機関では対応困難ながんにも的確に対応できる高度な専門医療を提供する

3 化学療法の現状

(1) 外来化学療法実施件数の推移

現在の外来化学療法室(40床)は、受入れ可能人数の限度に達しており、今後さらにニーズが高まると、増床が不可欠な状況になる。

【実施件数の推移】

区 分	H27	H28	H29
外来化学療法の件数	10,611	11,434	12,910

(2) 他のがん専門病院の状況

近年建替整備を行った他府県のがん専門病院は、いずれも整備時に外来化学療法室を増床しているが、既に増床後の病床もフル稼働状態であり、今後更にニーズは高まるだろうとの見立てである。

【他府県の外来化学療法室増床状況(第2回検討委員会資料抜粋)】

病院名	整備時期	病床数	備考
埼玉県立がんセンター	H25.8	43→60	
神奈川県立がんセンター	H25.11	24→50	H30.3 さらに10床増(計60床)
大阪府立国際がんセンター	H29.3	20→34	

【将来のあり方】

今後も更に高まることが見込まれる化学療法へのニーズに、的確に対応していく必要がある

4 放射線治療の現状

(1) リニアック稼働状況

現在リニアック(2台)はフル稼働しており、捌ききれない患者(約15%)は他院に紹介している状況である。

【H29 リニアック対象患者数】

区分	患者数	構成比
がんセンターで治療	760	85.2%
他院に紹介	132	14.8%
計	892	100.0%

(2) 粒子線治療施設の状況

① 兵庫県の粒子線治療と保険収載等

県では、全国初の都道府県立粒子線治療施設であり、かつ、陽子線、重粒子線双方の線種が使用できる国内唯一の施設である県立粒子線医療センターを平成13年に開設し、これまで8,000例以上の治療を行ってきている。

また、平成29年12月には、県立こども病院に隣接し、こども病院と一体となった小児がん患者への陽子線治療を特長とする神戸陽子線センターを開設した。

全国で粒子線治療施設の設置が進んでいるが、2つの都道府県立粒子線治療施設を持つのは兵庫県のみである。

また、この粒子線治療については、平成28年度の診療報酬改定から一部の症例で保険適用が開始され、平成30年度の改定で症例の追加がなされるなど、今後更なる普及が期待される状況にある。

【粒子線治療に係る保険適用症例】

《H28適用開始》

症例	区分	診療報酬額 ※ (千円)
小児腫瘍(限局性の固形悪性腫瘍に限る)	陽子	2,375
切除非適応骨軟部腫瘍	重粒子	2,375

《H30適用開始》

症例	区分	診療報酬額 ※ (千円)
切除非適応骨軟部腫瘍	陽子	2,375
頭頸部悪性腫瘍(口腔・咽喉頭の扁平上皮がんを除く)	陽子／重粒子	2,375
限局性及び局所進行性前立腺がん	陽子／重粒子	1,600

※ 診療報酬額は、全ての加算を獲得した場合の金額を記載

② 粒子線治療施設とがんセンターの連携状況

粒子線医療センター及び神戸陽子線センターの医師が、毎週がんセンターで粒子線外来を行うとともに、TV 会議システムを活用し、3者合同のキャンサーボードを実施している。

【将来のあり方】

- ・リニアックについては、新病院整備時の患者動向等を踏まえた機器整備を行う
- ・粒子線医療センター及び神戸陽子線センターとの連携により、粒子線治療に適応がある患者に適切に対応していく

5 合併症対応の現状

軽度な症例の場合のみ、治療に必要な範囲内で一時的な措置を行っている。
それ以外は、近隣の病院等と連携して対応している。

【将来のあり方】

今後、高齢化の進展等で合併症患者の増加が見込まれることから、総合内科の設置等、一定の合併症には院内で対応できる体制が必要である